

市長が行く

台風と線状降水帯への対応

No.150

茂原市長 田中豊彦



今年もまた台風シーズンがやってきました。近年では台風というよりも線状降水帯という連続的に降雨をもたらす雨雲が次から次へと発生し、日本全体を脅かす状況が続いています。今年は九州から山口県、福井県、秋田県など、今まであまり豪雨に見舞われなかった地域でも被害が起きています。被害に遭われた地域の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

今のところ関東周辺には線状降水帯は発生していませんが、またいつ何時豪雨に見舞われるか分からないほど、地球規模での異常気象が起こっています。今まで何度となくこのコラムでも書いてきましたが、令和元年の台風で茂原市を襲ったような豪雨がまた来たとしても、それに耐えられるように河川の工事を進め

てきています。しかし、今回九州地方や、東北地方を襲ったような線状降水帯が起こった場合、耐えられるかどうかは疑問に思うところです。近年の都市化の影響で、上流部での開発で保水力がなくなった結果、水が一気に上流部から下流部に流れ込み、茂原のような平地に集まり、茂原市の中でも特に低い地域は水害に見舞われてしまっています。調整池や、田んぼダムといった新たな貯水池も検討していますが、圧倒的な水量にどこまで対応できるかは未知数です。

皆さんにも、普段から自分の居住地域の特性を理解し、命を守るための意識を持っていただけたらと思っております。令和元年に多摩川が氾濫した後で、千葉県のある市の市長が都知事から、荒川や墨田川周辺のゼロメートル地帯の住民30万人を避難させる場所がないかと打診を受けたことがあったそうです。そんな場所あるわけないですと答えたそうですが、東京都でもゼロメートル地帯の人達の避難場所の確保に頭を痛めているという事です。

今後、豪雨がうまく避けてくれるよう祈るばかりで手をこまねいていても仕方ないですし、災害に備えて、思い付く限りの手を打っていかなくてはなりません。

呼び掛け、避難訓練の実施など行っておりますが、市民の